

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300761		
法人名	医療法人香徳会		
事業所名	グループホームあおば		
所在地	愛知県名古屋守山区森孝四丁目124番地		
自己評価作成日	平成24年1月23日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町2丁目6-5 かえてビル2F		
訪問調査日	平成24年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでもその人らしさを大切に」の理念のもと入居者様個々に合わせた介護を行っており、スタッフの充実によりゆとりある介護を行うことができます。当施設は同姓介護を実施しており、入居者様、スタッフ全員女性であり、皆さん、落ち着いた環境で静かに暮らされています。また、医療との連携も充実しており、内科、歯科、眼科、皮膚科の往診をしていただいています。曆に沿った行事をスタッフが入居者様と一緒に楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建ての民家を利用した広い庭のあるグループホームである。庭師により手入れされた庭の眺めは開放感があり、花や実がなる草木からは四季折々の季節を感じ、ゆったりとした気持ちで過ごすことができる。母体が医療法人であり日常的に連携や支援が受けられ、看取りの実績もあり利用者や家族にとって安心できるホームである。利用者が作詞作曲した「あおばのうた」は行事ごとに歌われホーム歌となっている。利用者一人ひとりのホームでの様子を、写真とコメントを沿えて毎月家族に郵送している。利用者のありのままを知らせる事で離れて暮らしている家族は、利用者の今の様子を理解することが出来る。地域との関わりや広がりを深めていく努力を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者がその人らしく暮らしが続けられるよう「いつまでもその人らしさをたいせつに」の理念の下、サービスを提供している	玄関・フロアー・事務所に理念を掲示し、常に職員と「その人らしくとは」について毎日のミーティングや会議で話し合いを行っている。利用者それぞれの「その人らしさ」を把握してケアを行うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っている。お祭り等に参加している。また、子供会のお神輿が当施設を訪れ、地域の子供たちと交流を深めている。	お祭りなどで地域の人がホームに立ち寄り交流はある。外出は利用者一人に一人の職員の付き添いが必要なため、地域行事に参加し、交流することが困難である。町内会や婦人会にボランティアの呼びかけを依頼し地域との交流に努力をしているが、効果は少ない。	地域との交流やホームの活動などにボランティア利用の計画があるので、町内会を含めた地域に積極的な働きかけをし、地域との関わりを深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、行なえていない。今後の課題である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っており、歯科医師、町内会長、民生委員、ご家族代表者の参加により開催している	開催日を土曜日から木曜日にし、行政の出席が得られるようになった。利用者の様子や活動内容の報告、歯科医から口腔に関する指導や民生委員から香流川の防災についての話しもあり、サービスに役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	名介研の研修会に参加している。わからないことなどあれば担当者に直接連絡をとり、関係を築いている	市担当者とは申請時に、区担当者とは介護保険更新申請時に連携している。利用者が以前住んでいた区とも連絡を取り様子を把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門は鍵施錠されているが広大な庭は開放されており出入りは自由である	門・玄関は施錠しているが、外出を希望する利用者には一緒に出かけている。居間や廊下から庭に出ることが出来、利用者が庭のみかんの木から収穫してくるなど自由に出入りしている。研修も受けており、ケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や勉強会へ参加し資料を回覧して防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得していただくまで説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口・意見箱な設置し、面会時には直接意見など伺うようにしている	意見を上手に表せない利用者には聞きやすい雰囲気を作って把握し、家族からは直接意見を伺い要望を反映させている。職員の名前と顔が一致しないという意見には、分かりやすいように写真を添付し改善をし玄関に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ユニットである為速やかに反映することができる。月1回の職員会議や都度、提案を聞いており、会議等で決定し、反映している。	職員会議で意見や提案を聞き、最善の方法を検討して決定し、反映している。また、1日3回のミーティングの場で決めて実行することもある。年2回の個人面談では、職員の目標達成状況について話し合い、法人へ達成状況を報告し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の満足度調査で個々の思いを伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加、職員の希望をとり、多数の勉強会や研修へ参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、名介研を通じ同業者間の交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係の確立を図るため、本人の思いを大切に、不安を取り除き安心がえられるように声掛け寄り添いをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が当施設に何を求めているのか耳を傾け受け入れるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いをし、どこまで支援が必要であるか見極め、確認し合っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にあわせ、洗濯干し、たたみ、テーブル拭き等一緒に行い、できないところは援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、通院などご家族に協力して頂き利用者を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外泊、外出等自由に行動できる	家族と一緒に知人が面会に来たり、家族と馴染みの美容院に外出している。また、自宅へ外泊したり家族と旅行に出かけたりし、つながりを継続する支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティの時は利用者同士、利用者同士助け合ったり、声掛けできるよう席など配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、行なえていない。今後、契約が終了された時どのようにフォローをしていくか課題である		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆとりのある時間に職員が隣に座り、話をし、本人の思いを聞き出している。	午後の夕食前までの時間や夕食後から就寝までの時間、入浴時などのゆっくりと話が出る時に話を聞くようにしている。言葉で表現できない人には表情を読み取り言葉を補ったり、昔話などからも汲み取って意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より情報収集し記録に残している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎週木曜日にショートカンファレンスを行っている。月1回の会議時書面にて現状報告。個人表にて申し送りをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き、スタッフとケアマネジャーとケアプランを作成している。	利用者それぞれに職員の担当を決め、本人、家族の思いや考えを聞いて反映させたケアプランを作成している。介護計画は3か月毎に見直しを行っている。介護計画は会議で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況の変化に合わせてショートカンファレンスをし、意見交換をおこない、変更するときは家族と相談し、ケアの提供に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り取り組んでいる。基本的に通院は御家族対応であるが、困難な場合は、職員が付き添って受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加、子供との触れ合いなどで楽しんで頂ける様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一部の入居者を除いて、24時間体制の訪問医と連携をとっている。また、法人の病院と連携をとっている。歯科、皮膚科、眼科の往診がある	かかりつけ医の受診は家族で対応し、ホームの状況を書面で主治医に提示している。診察の結果は家族から把握するようにしている。24時間体制の訪問医の他に週1回の訪問歯科、月1回の皮膚科、6ヵ月毎の眼科の訪問診察がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の訪問体制の訪問看護師と連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と法人の病院と連携をとり対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族と話し合い文書にて、説明、同意をえている。また、年に1度事前指定期書の更新をしている。	本人・家族の意向を踏まえ24時間対応の主治医と訪問看護の協力を得ながらホームでできる治療やケアを行い、安心して納得した最後が迎えられるように取り組んでいる。年に1回、家族会で家族の意向を文書で把握している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、法人内において救急蘇生の勉強会を実施している。AEDを設置している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をしている。毎年夜間想定での避難訓練を実施している。今年度スプリンクラーを設置	夜間を想定して一人の職員が全員を避難させる訓練を、夜勤者全員が体験できるようにしている。消防署の参加もあり、避難経路の確認や助けを呼ぶことなどのアドバイスを受けている。非常食は2日分備蓄している。地域との協力体制は取れていない。	運営推進会議で防災についての話し合いもしているが、地域住民の参加や協力を得た避難訓練の実施を願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が何か失敗をしても、自尊心を傷つけない対応を心がけている	援助が必要なときは言葉を選び、本人の気持ちを大切に声をかいている。利用者間の思いの違いは、双方が納得できるように意見を提案して人格や誇りを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の細かなことでも本人の希望に沿うように声掛けをし、自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や一人ひとりのペースを大切に、自由に過ごしていただいている。自己決定できない人には都度声掛けをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容にきてもらっている。また、なじみの美容室に家族と一緒に掛けている方もいらっしゃる。季節ごとに家族へ衣替えの依頼をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好物を聞き提供、暦にあわせ、行事食をいっしょに作っている。	メニューは利用者に何を食べたいか聞いて決めている。お茶を入れたりテーブルやお盆を拭くなどを一緒に行い、職員と一緒にテーブルで楽しく会話をしながら食事している。節分の恵方巻きの海苔を、利用者が食べやすいよう卵焼きにするなど工夫したり、季節ごとの行事食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々あった食事量を提供し、必要に応じて水分を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。6ヶ月に1度訪問歯科医による検診等を行なっている。年に1度無料検診を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあわせ、布パンツ、紙パンツ、パット等使用。自尊心を傷つけないよう、必要に応じて声掛けをしている。	生活のリズムに沿った声かけや誘導を行っている。介助が必要な人には一緒にトイレに入って支援している。布パンツ・紙パンツ・尿取りパットの選択は利用者の状態に合わせて検討し、実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、乳酸菌、ヨーグルトなどを取り入れ、水分補給の促し、トイレ誘導をしている。最近、牛乳も飲み始めた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきにゆっくり入浴できるようにしている。時間は午後だが順番は決まっていない。本人の様子を見ながら誘うようにしている	一日おきに入浴できるよう、毎日4～5名づつ、午後2時から5時の間に入浴している。利用者の希望や意思を尊重し一緒に介助したり、翌日に入るよう変更するなどの働きかけを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や体調に合わせて支援している。冬場居室が乾燥しやすいため、加湿器等を設置している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬局で出してもらっている説明書を使用し何時でも確認できるようにしている。錠剤等飲みにくい場合など、医師や薬剤師と相談し、粉碎するなどしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や興味のある事を把握し役割をもって生活していただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外食、遠足等の支援、又、町内の行事へ参加。御家族には外食、外泊、買い物等後協力いただいている。	外出は利用者一人に一人の職員の付き添いが必要なため日常的に外出することが困難になってきている。ホームの年間行事として花見や遠足・買い物などに出かけている。日常の散歩は暖かい日のみに限られている。庭の掃除や散策を通して外気に触れる機会もある。	外出の時間や日、ボランティアの導入などを検討し、近くの喫茶店や散歩に出かけるなど積極的に外出し、近隣住民と交流できるような支援を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、個々の能力に応じ、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の了解のもと支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁飾りを一緒に作成し、かざっている。又、思い出の写真等を飾り、心地よい空間になっている。居間には温度湿度計を設置し配慮している。	民家を利用しているため居間は段差があるが手すりやスロープが備えられ、歩行器や車椅子でも移動しやすい。広い洗面スペースでは、日向ぼっこやリハビリを兼ねた歩行等ができる。平屋で、落ち着いて過ごせる居間や広い庭のある空間は利用者にとって懐かしく心地よく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洗面所にはソファを設置し、一人になったり、他の方と会話を楽しむ場所になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りなじみのものを使用して頂くように家族へお願いしている。リースのカーテンは本人が選んだ物を使用している。	筆筒や鏡台などの思い出の品々が持ち込まれ、利用者が安らぎを得られる空間となっている。家族の協力を得て衣類や寝具の衣替えを行っている。ベットはホームの備え付けであるが、希望により布団も使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事、出来ない事を把握、出来る限り自立した生活から遠ざけないよう工夫している。		